舞台芸術分野における公演情報のアーカイブの意義と課題
Japan Digital Theatre Archivesを題材にして

デジタルアーカイブ学会 第６回研究大会　2021 年 4 月 24 日 (土)

一般研究発表 セッション6　[64]

早稲田大学演劇博物館　中西 智範

デジタルアーカイブ室・写真室

発表の主旨

- 早稲田大学演劇博物館は、舞台芸術分野の情報検索サイト「Japan Digital Theatre Archives」(以下JDTA)を2月23日公開 **1.**

- 設計～制作～公開までの実践内容の報告 **2.**
  - ＜技術的要素を中心に＞
  - 語彙、メタデータ　　：設計
  - Omeka Sの利用　　：実装
- 舞台芸術分野のアーカイブにおける課題や将来の展望について考察 **3.**

１．JDTA公開の経緯

1-1. 実施事業

- 令和二年度　文化庁「文化芸術収益力強化事業」

  新型コロナウィルスの感染拡大により、文化芸術団体等が
  厳しい経営状況にさらされる中、事業構造の抜本的改革を促し
  新しい収益確保・強化策の実践を通じて、国内の新たな鑑賞者
  の拡充や海外需要を引き寄せることを目的とした事業。

- EPAD事業
  「緊急舞台芸術アーカイブ+デジタルシアター化支援事業」

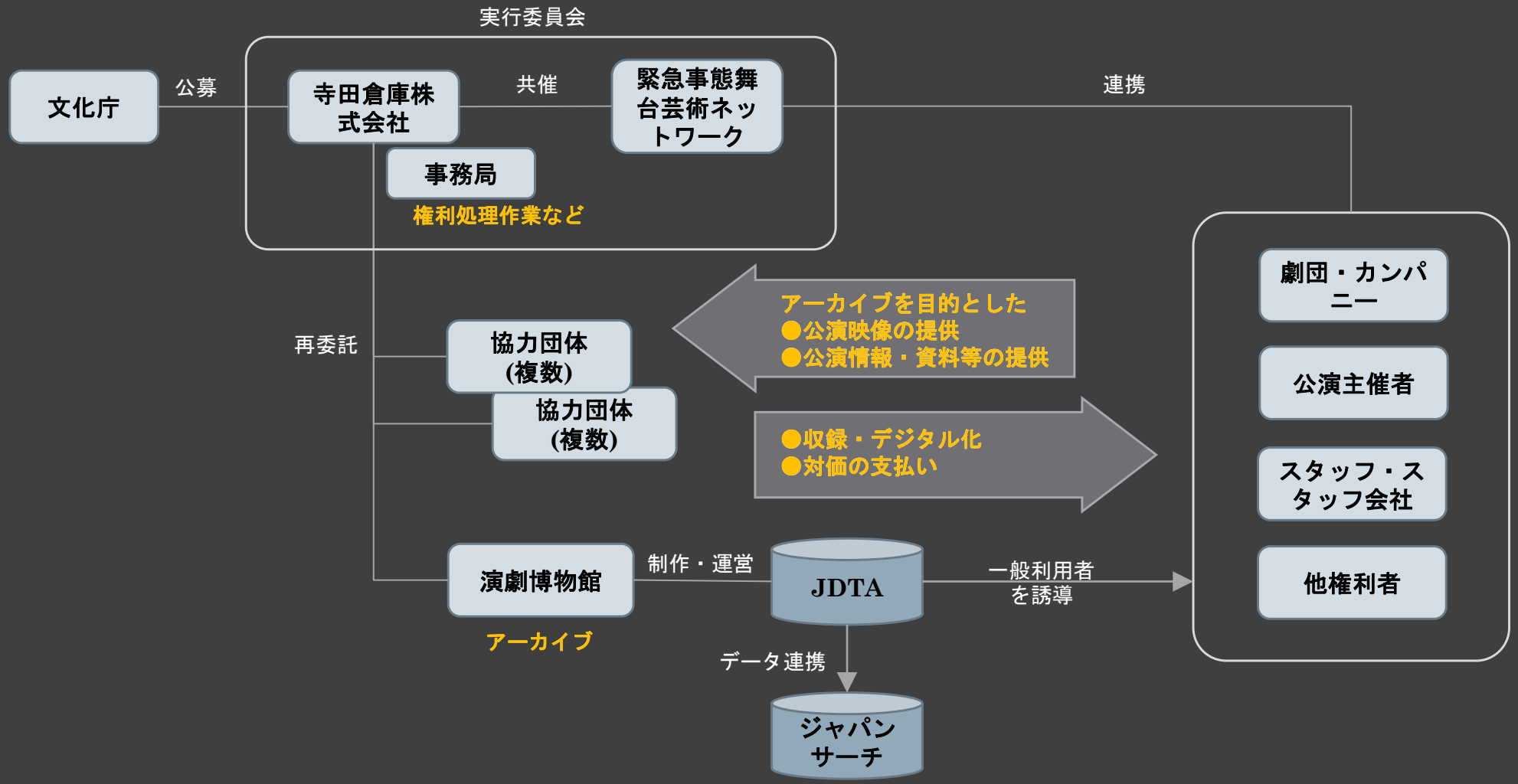
  寺田倉庫株式会社および緊急事態舞台芸術ネットワークが運営。
  舞台公演映像（新規収録・過去収録済を問わず）や関連資料を
  劇団等の団体から収集して協力金として対価を支払い、
  さらに権利処理を行って配信可能にする事業。

  （その他　　スタッフ技術のEラーニング動画制作、教育関連事業）



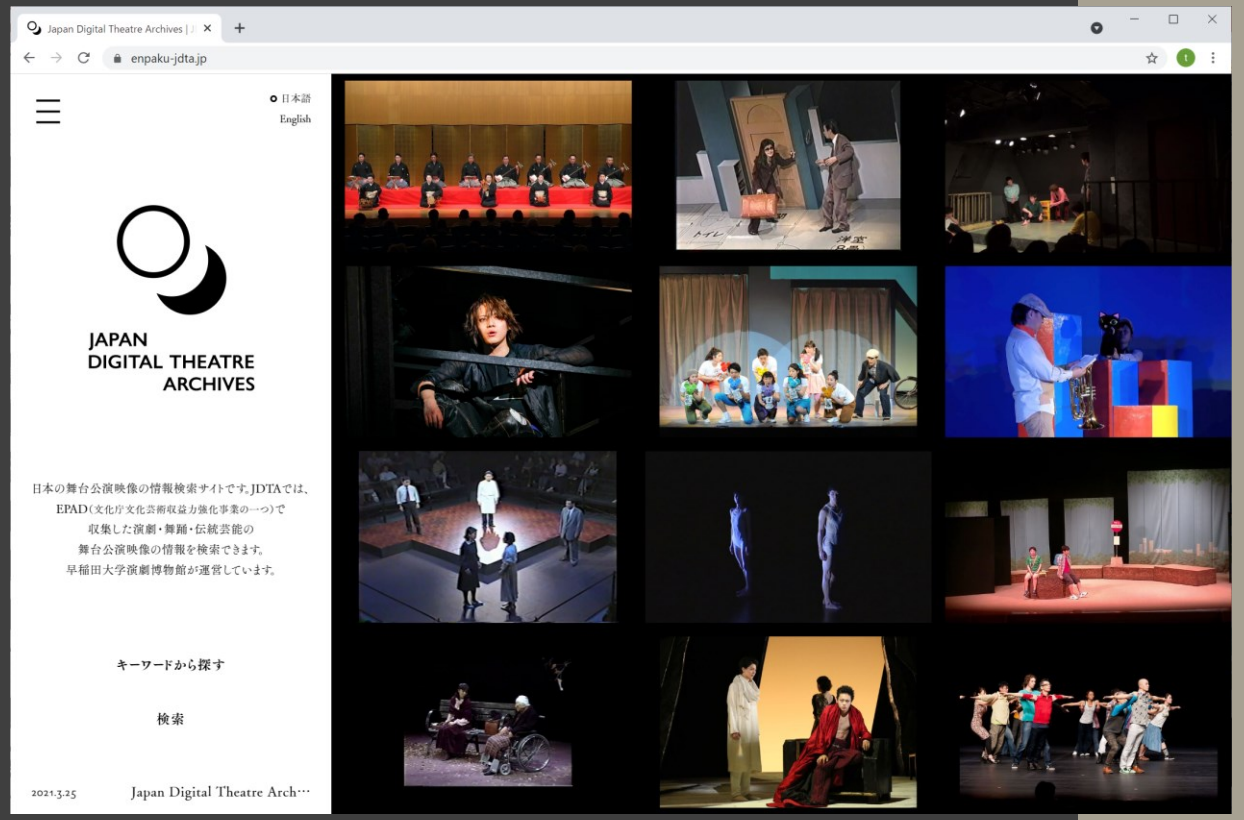
『EPAD事業』HP

1-1. 実施事業


実行委員会
文化庁
公募
寺田倉庫株式会社
共催
緊急事態舞台芸術ネットワーク
連携
事務局
権利処理作業など
再委託
協力団体(複数)
協力団体(複数)
アーカイブを目的とした
●公演映像の提供
●公演情報・資料等の提供
●収録・デジタル化
●対価の支払い
劇団・カンパニー
公演主催者
スタッフ・スタッフ会社
他権利者
演劇博物館
アーカイブ
制作・運営
JDTA
一般利用者を誘導
データ連携
ジャパンサーチ

1-2. JDTAの特徴

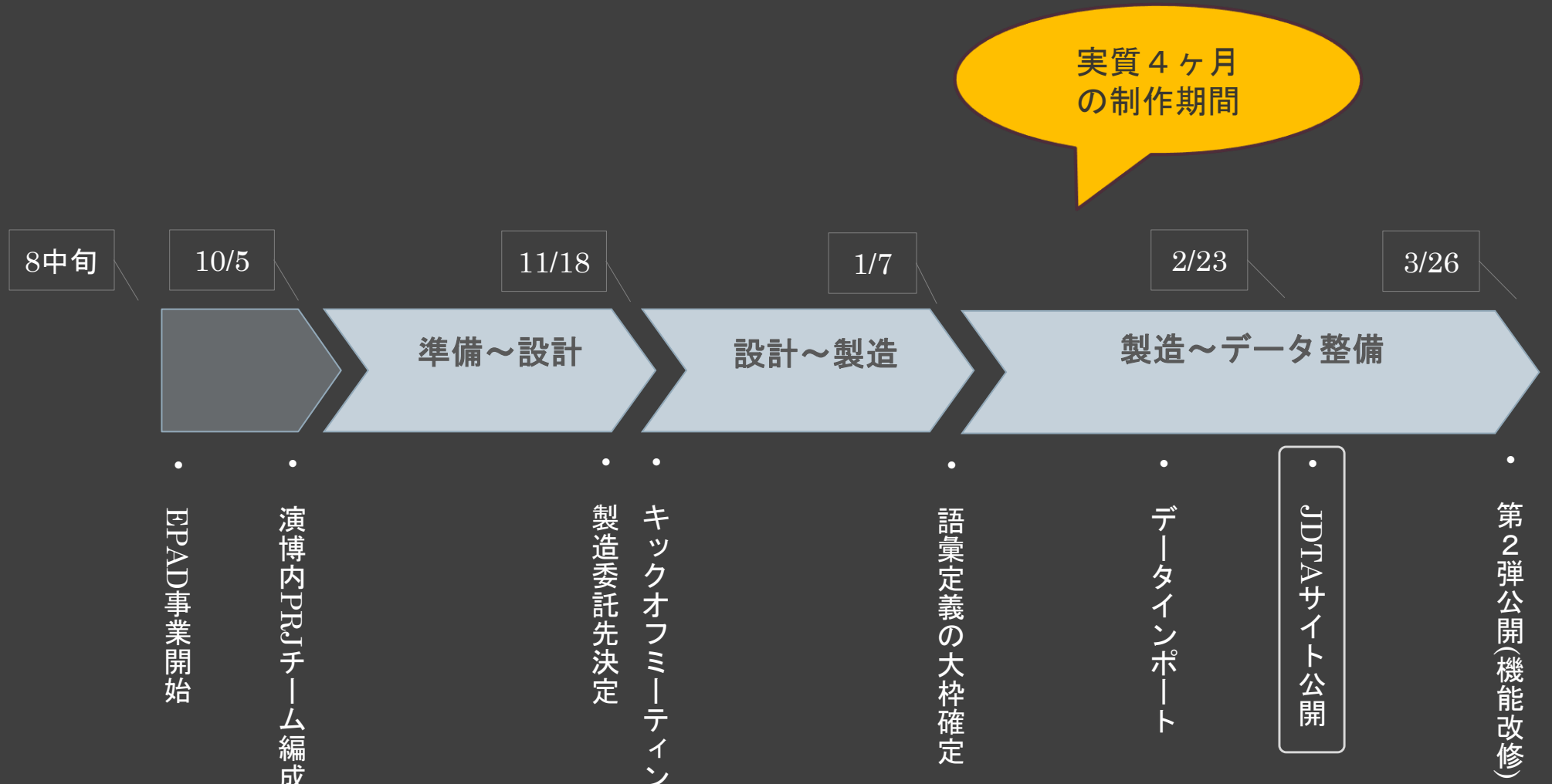
- 舞台公演情報の検索、閲覧
  - 1,246件(演劇:944、舞踊:237、伝統芸能:83)
  - フライヤーや舞台写真の掲載
- 舞台記録映像へのアクセス
  - ３分のダイジェスト/抜粋映像の紹介：292件
- 豊富な情報量
  - 出演者、スタッフ情報
  - 劇団やカンパニーのWebサイトへの誘導
- 特徴的なUI・UX
- 日英二ヶ国語対応



『Japan Digital Theatre Archives』トップページ

- ※2021年3月31時点の計上

1-3. 実施スケジュール


実質４ヶ月
の制作期間
8中旬
10/5
11/18
1/7
2/23
3/26
準備～設計
設計～製造
製造～データ整備
EPAD事業開始
演博内PRJチーム編成
キックオフミーティング
製造委託先決定
語彙定義の大枠確定
データインポート
JDTAサイト公開
第２弾公開(機能改修)

２．実践内容（設計＋実装）

2. 実践内容（設計＋実装）

- 2-1. 語彙、メタデータ設計

  舞台芸術分野の情報表現に最適化させることを目指した

- 2-2. Omeka S利用のポイント

  Omeka S　ver.3　＊LAMP（Linux・Apache・MySQL・PHP）

  Webサイト制作手法
  - Omeka APIを用いることでフロントエンドとバックエンドを分離した製造
    : Vue.js　←→　API（Omeka S）　←→　Omeka S

有識者の協力
筑波大学の杉本重雄名誉教授、並びに　東京大学史料編纂所の中村覚助教

2-1. 語彙、メタデータ設計

① 舞台芸術を構成する要素の整理

↓

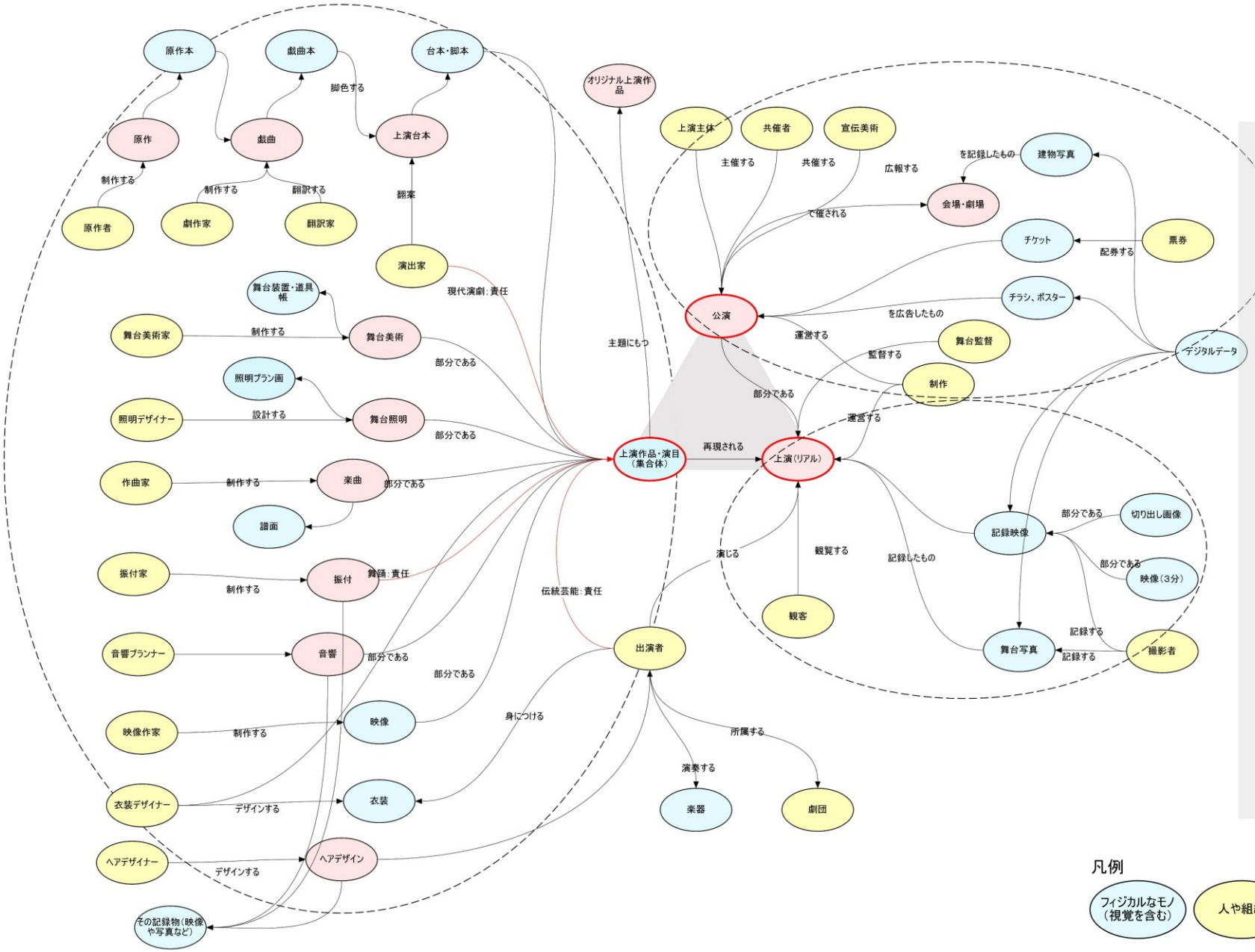
② エンティティ定義

↓

③ メタデータスキーマ設計
・フォーマット仕様は公開検討中…

[ベース]：Dublin Coreを再利用
[　＋　]：DCMI Metadata Terms、FOAF、BIBFRAME、RDF Schemaを再利用
[　＋　]：舞台芸術分野の表現に必要な語彙を追加

①　舞台芸術を構成する要素の整理



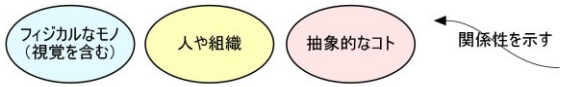
◆舞台芸術を構成する要素を書き出す

◆要素間の関係をつなぐ

◆分類する
- 抽象的な“コト”(赤)
- フィジカルな“モノ”(青)
- 関係のある“人や組織”(黄)

◆コア要素を定める
- 「公演」
- 「上演作品・演目」
- 「上演(リアル)」

凡例



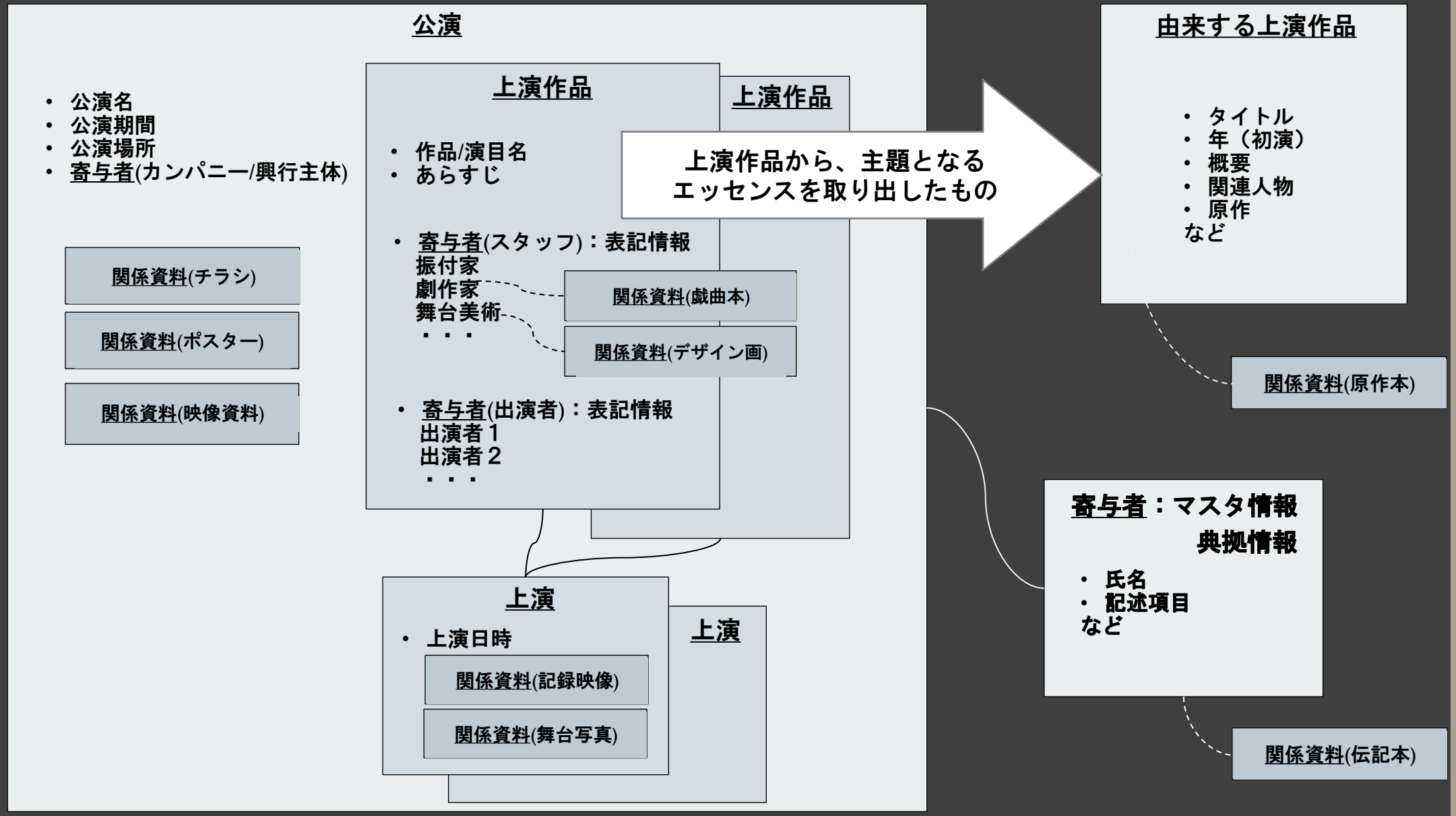
②　エンティティ定義

・要素の整理作業を経て、主な７エンティティを定義

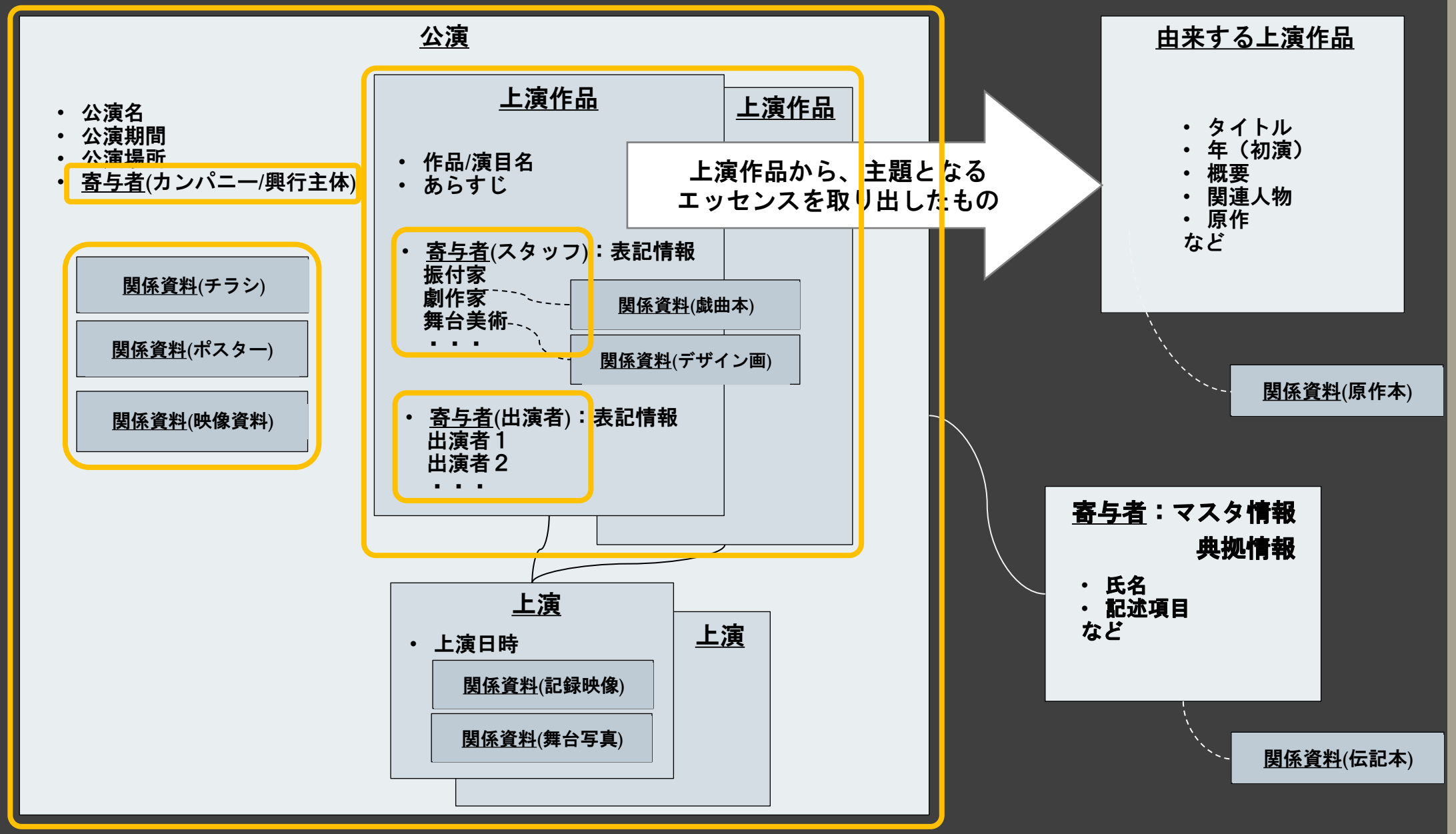
公演	個人や組織・団体などが主催し開催する、公演やイベント、フェスティバルなど
上演作品	公演のために制作される創作的な表現であり、戯曲や舞台美術、舞台照明、楽曲、振り付け、演出などが複合的に組み合わさり構成され表現されたもの
上演	実演家や制作者の創作活動の実現により創造されるリアルなパフォーマンス
寄与者	公演や上演、上演作品、関係資料の生成に関し、主催や制作・出演などの何らかの役割をもち、寄与関係にある人物や組織、団体、グループなど
関係資料	さまざまな創作活動の過程や結果に生み出された、またはそれらと何らかの関係性をもつ対象物
由来する上演作品	初演の上演作品や演目（伝統芸能における）などを示す（舞台作品や演目は、再演や復活上演などが行われる）

→何を初演と定めるかは難しい

② エンティティ定義

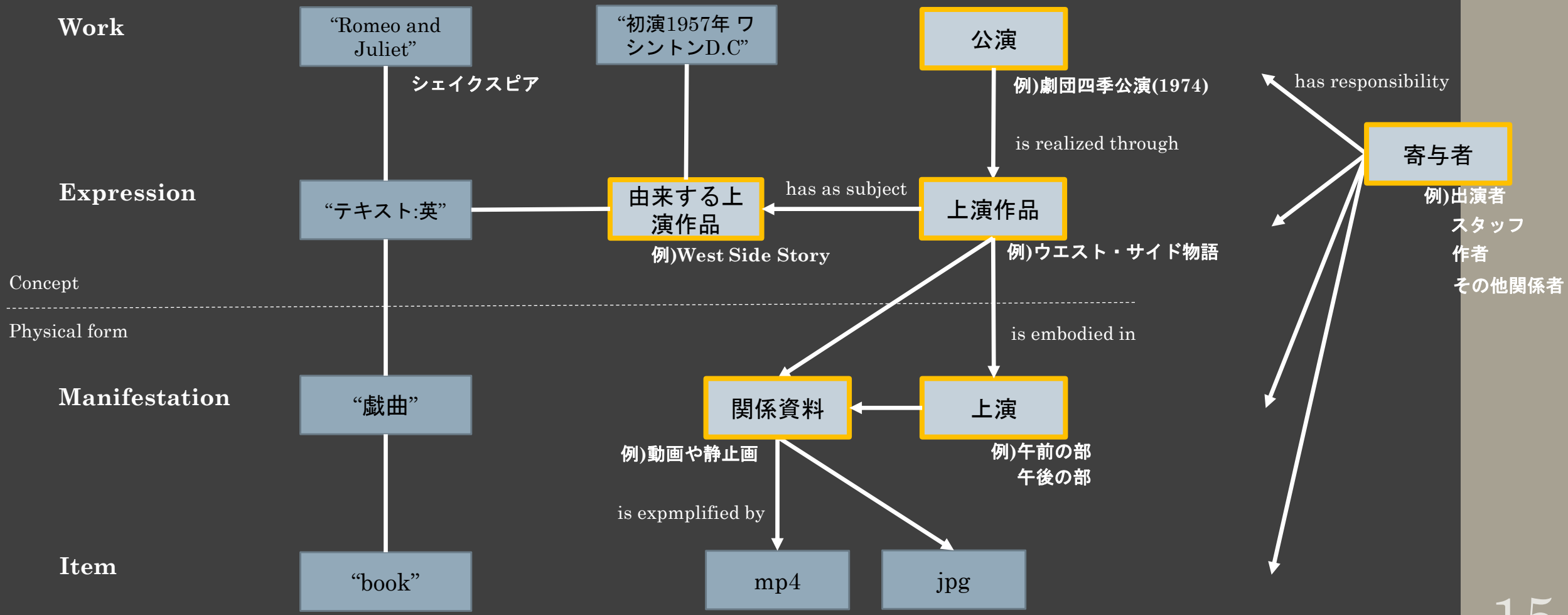

公演
・ 公演名
・ 公演期間
・ 公演場所
・ 寄与者(カンパニー/興行主体)
関係資料(チラシ)
関係資料(ポスター)
関係資料(映像資料)
上演作品
上演作品
・ 作品/演目名
・ あらすじ
・ 寄与者(スタッフ)：表記情報
振付家
劇作家
舞台美術
・・・
関係資料(戯曲本)
関係資料(デザイン画)
・ 寄与者(出演者)：表記情報
出演者１
出演者２
・・・
上演
上演
・ 上演日時
関係資料(記録映像)
関係資料(舞台写真)
上演作品から、主題となる
エッセンスを取り出したもの
由来する上演作品
・ タイトル
・ 年（初演）
・ 概要
・ 関連人物
・ 原作
など
関係資料(原作本)
寄与者：マスタ情報
典拠情報
・ 氏名
・ 記述項目
など
関係資料(伝記本)

② エンティティ定義（JDTAで実装した部分）



②　エンティティ定義

・FRBR的に関係性を記述すると？　～検討中の内容～



2-2. Omeka Sの利用

① 独自APIの利用
フロントエンド/バックエンドの開発作業の分離
構造化情報の検索／表示機能の実装
→Omeka Sの標準検索では機能要求を満たせない

② CMSとしての機能
情報の構造化：クラス、エンティティ定義
インポート機能
データ管理　など

＜登録レコードItem数＞

公演	:	1,264
上演作品	:	1,410
寄与者	:	29,580(カンパニー/興行主体、スタッフ、出演者)
関連資料	:	1,424 (映像資料)
関連資料	:	3,084 (画像情報)

① 独自APIの利用

- API利用対象範囲

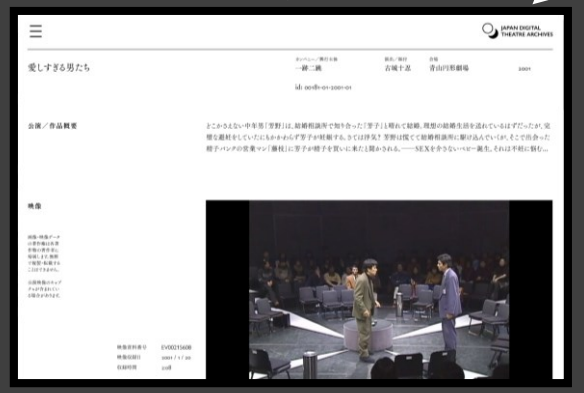
TOP画面

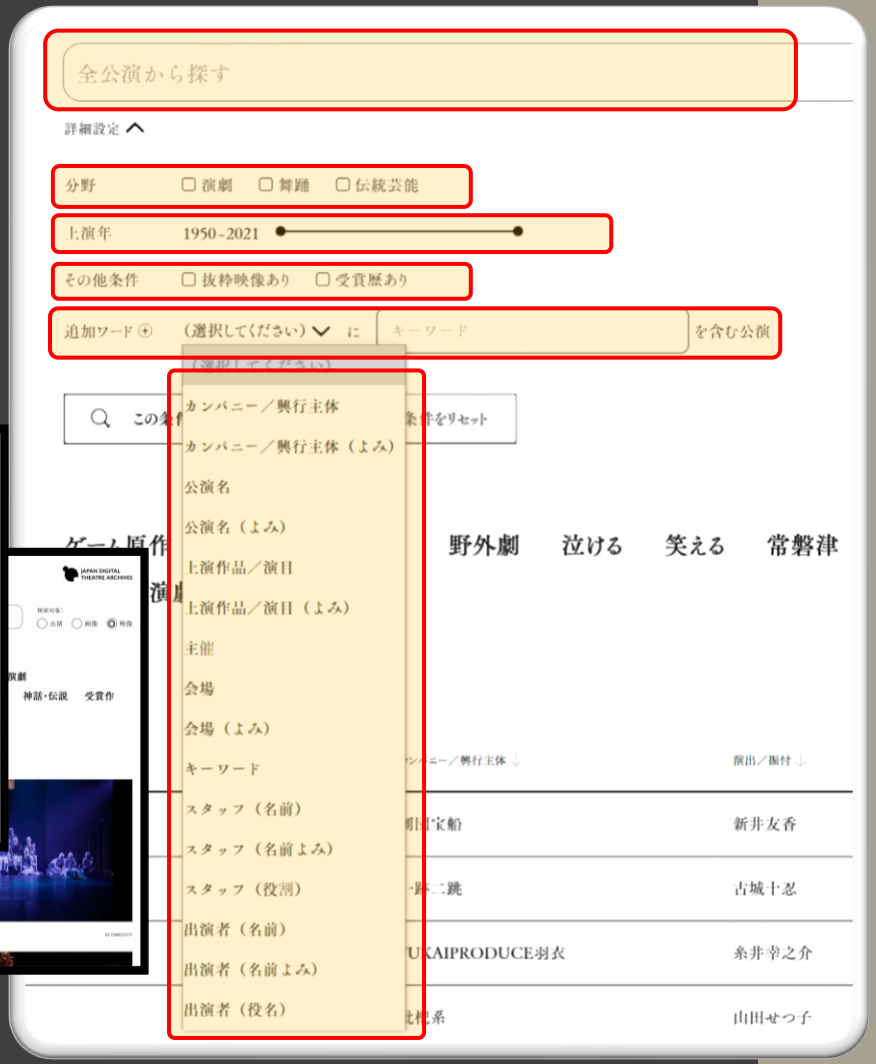


検索画面



詳細画面



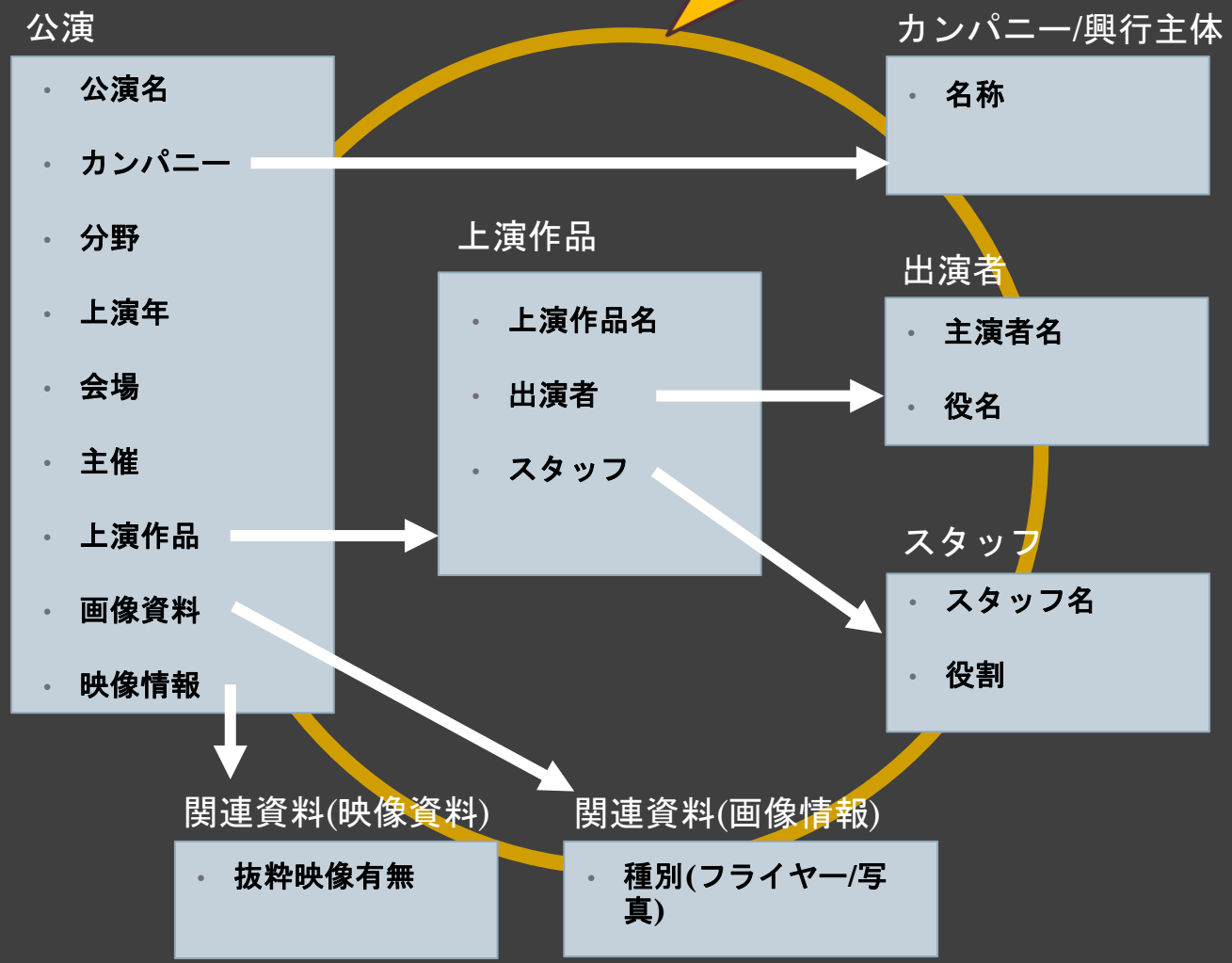


検索項目

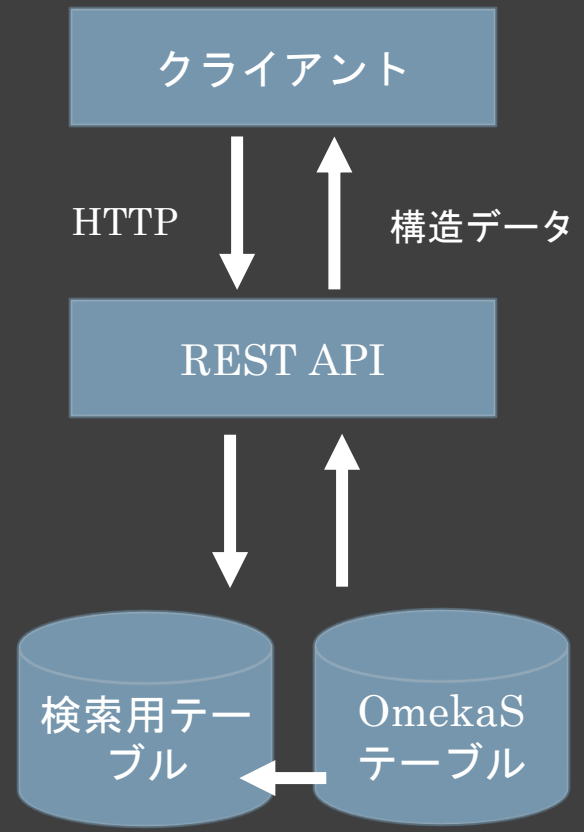
① 独自APIの利用

- Itemとプロパティの構造

データの関係性を表現するのは得意。構造化された状態のデータ取り回しは苦手



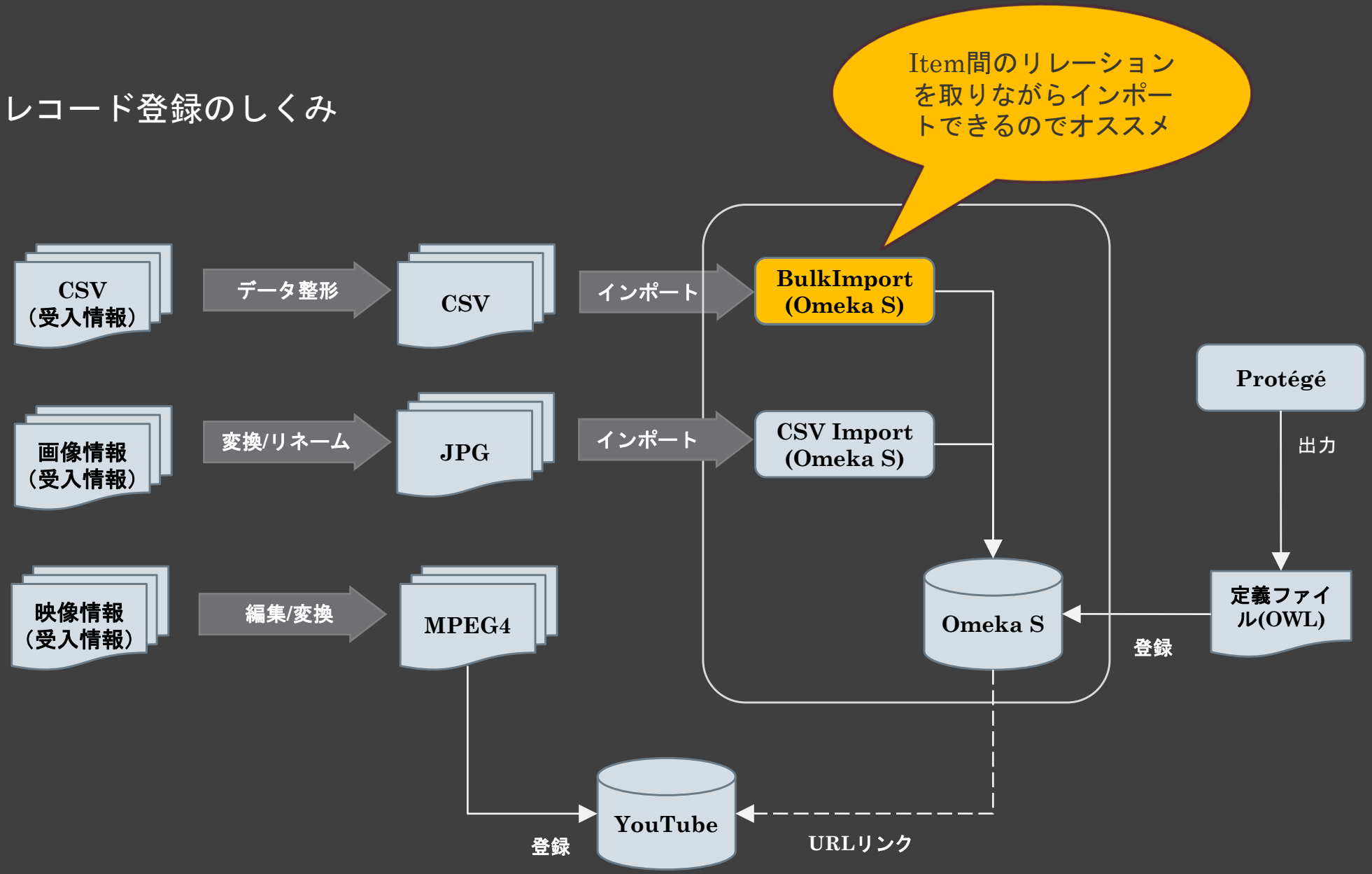
- API



検索用にチューニング

② CMSとしての機能

・レコード登録のしくみ



３．課題と展望

3. 課題と展望

- デジタルアーカイブの仕組みとして機能させる
  - 受入→保存→活用（公開）のサイクルを構築する
    →国内での舞台芸術分野全体のコミュニティ協力体制をより強固に

- 国内における舞台芸術資産をいかに遺して、活用へ繋げるか
  - 他の情報資源やアーカイブ化された資料と、いかに有機的に結びつけるか
  - セマンティックな表現を目指す　：オープンデータ

- 収集したデジタルコンテンツの長期的な保存

- 今後の機能拡張
  - より複雑な表現法を組み込むことは、Omeka Sでは対応が難しくなる？

ご清聴ありがとうございました

t.nakanishi5@kurenai.waseda.jp

参考

- 緊急事態舞台芸術ネットワーク
  https://www.jpasn.net
  “緊急事態舞台芸術ネットワークは、今回の新型コロナウイルスのような緊急事態にのみ活動します。すなわち、舞台芸術全体が公演中止に追い込まれそうな時、もしくは追い込まれた時においてのみ活動します。主たる目的は社会と共にいかにして舞台芸術の公演を再開していくかにあります。表現方法の違いを越えて「ライブの舞台を通しての表現者」として、舞台芸術界がその緊急事態から脱却し、安全な状況で再開され再生していくために、互いに連携し協力し、情報を共有し合い、交渉事、会議などに臨んでいきます。これは、個々舞台芸術団体の権利、経済的自由を守るためだけでなく、舞台芸術界全体、ひいては日本文化を守るためでもあります。勿論、こうした舞台芸術の公演の再開に当たっては、同時に緊急事態で危機的な状況にある社会との親和性を図りながら進めていきます。”
- 『EPAD事業』ポータルサイト
  https://epad.terrada.co.jp/（参照：2021/04/14）
- 2020年度EPAD事業報告
  https://epad.terrada.co.jp/index.php/2021/04/21912/　（参照：2021/05/10）

- 開発担当
  - フロントエンド：　株式会社日本デザインセンター
  - バックエンド：　株式会社ベクターデザイン